

がん疼痛薬物治療 (Cancer Pain Drug Therapy) (1)

【WHO方式による4原則】

①by mouth

・経口投与を基本とする。

②by the clock

・定時投与を基本とする。

③for the individual

・患者ごとに適切な薬剤、適切な投与量を選択する。

④with attention to detail

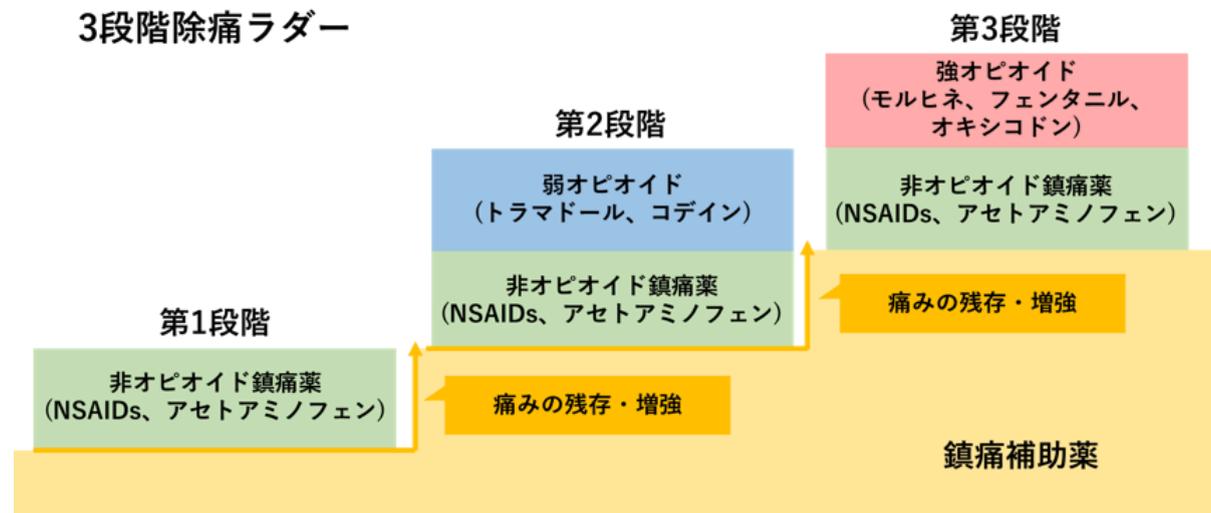
・レスキュー薬の使用法を丁寧に説明する。

・副作用に適切に対処する。

・鎮痛薬に対する誤解を解消する。

⑤by the ladder(※以前はこれを含めて「WHO方式による5原則」であった)

・薬剤選択は、WHO3段階除痛ラダーに従い、非オピオイド鎮痛薬→弱オピオイド→強オピオイドの順で使用する。鎮痛補助薬は適宜、併用。



●鎮痛薬に対するよくある誤解

①「麻薬を使うと依存症になる」

⇒医療用の用法用量では、依存症になるリスクは0.2%以下である。

②麻薬は、末期で使う薬である。

⇒早期でも使う。

③麻薬を使うと余命が短くなる。

⇒短くならない。

④痛みが弱いうちから鎮痛薬を使うと、痛みが強くなってから効かなくなる。

⇒痛みが強くない内から鎮痛薬を使った方が、トータルの鎮痛薬の使用量は少なくなる。

💡 依存症

①精神的依存(単に「依存」とも)

・止めないと大変なことになると分かっている、やめられない状態。

②身体的依存

・薬剤を休止したときに、離脱症状がでる状態。

【非オピオイド鎮痛薬】体性痛○、内臓痛△、神経障害疼痛×

●NSAIDs

・具体的な薬剤:ロキソプロフェン(ロキソニン)、ジクロフェナク(ボルタレン、ジクトルテープ)、セレコキシブ(セレコックス)、ナプロキセン(ナイキサン)、フルルビプロフェン(ロピオン)、アスピリンなど

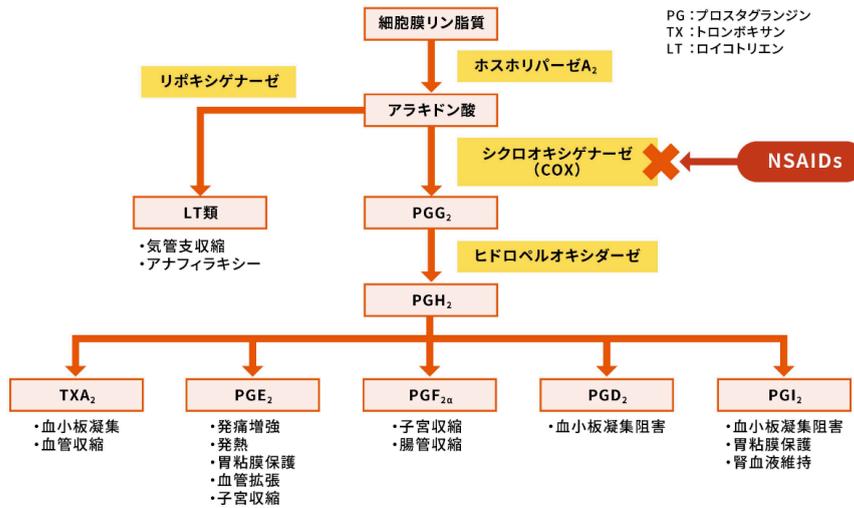


用法用量:1日1回、2枚を貼付(必要に応じて3枚まで可)

・薬効:解熱、鎮痛、抗炎症

・作用機序:平時から多くの組織ではCOX-1によりPG(プロスタグランジン)類が合成されているが、炎症があるときはCOX-2が発現し、特にPGE2が合成される。COX-2は、炎症局所はもとより、サイトカインが炎症局所から全身に拡がることにより、全身的に発現し、PGE2を合成する。PGE2の作用は、発熱、疼痛増強、炎症増強であるが、炎症局所などでは疼痛増強、炎症増強を引き起こし、視床下部では発熱を引き起こす。NSAIDsはCOXを阻害し、PG類の合成を抑制することで作用を発揮するが、主には、COX-2を阻害することにより、PGE2の産生を抑制し、解熱、鎮痛、抗炎症効果を発揮することが期待されている。

非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) の作用



- ・PGE₂: 発熱、疼痛増強、炎症増強 (血管拡張、血管透過性の亢進、白血球の浸潤増加)
- ・PGI₂: 血小板凝集抑制、血管拡張
- ・TXA₂: 血小板凝集、血管収縮

・3大副作用: 消化性潰瘍、腎障害、血小板機能低下

・消化性潰瘍予防のため、PPI (タケプロンなど) or ミソプロストール (サイトテック) の併用が必須。

・COX-2 選択阻害薬であるセレコキシブ (セレコックス) は副作用が弱いとされている。それでも、胃薬の併用は必要であり、腎機能障害では使用不可。そして、逆に血栓傾向で、心血管イベントのリスクは増大する。

・アスピリン不耐症 (アスピリン喘息): アレルギー機序ではなく、COX-1 阻害が原因。アスピリン以外の NSAIDs でも起こる。COX-2 選択的阻害薬では起きにくい。

●アセトアミノフェン

・商品名: カロナール錠、カロナール坐剤、アセリオ(注射剤)など



アセリオ

- ・薬効: 解熱、鎮痛
- ・作用機序: 肝臓で脱アセチル化された後、中枢神経に移行し、脂肪酸アミドヒドロラーゼによる代謝物が、視床下部に作用し解熱作用、視床に作用し鎮痛作用を発揮。
- ・Max 4000mg 4×(1回あたり、15mg/kgを目安にする) ←剤型による違いなし。
- ・ほとんど副作用を気にしなくて良い。
- ・アセトアミノフェン中毒: 投与されたアセトアミノフェンの90%以上は、肝でグルクロン酸抱合 or 硫酸抱合を受け、腎から排出される。数%が肝においてCYP2E1により肝毒性のあるNAPQIに変換されるが、すぐにグルタチオン抱合により無毒化される。過剰のアセトアミノフェンを摂取すると、グルタチオンが枯渇し、NAPQIが増加し、肝細胞が壊死する。1回の服用で10000~15000mg(通常用量の10~15倍)を超えると肝細胞壊死を起こす。専用の中毒治療薬のアセチルシステイン「あゆみ」あり。

◎NSAIDsとアセトアミノフェンは別の薬なので、併用可！！